

美山の茅葺き技術×大工技術×北山杉
リゾート地に京都産「南国風茅葺き東屋」を

ニシオサプライズ 株式会社

代表取締役

にしおはるお
西尾晴夫さん



西尾晴夫さん

平成22年度 採択事業

常に10年先を見つめて

「茅葺きの家の魅力は、自然と共棲してきた日本人の好みや思想を肌身に感じられること」と話す美山の茅葺き職人・西尾晴夫さんは、京都市内の大学を卒業と同時にこの世界へ飛び込みました。茅葺き職人は高齢化が著しく、60歳以下は全国に約30人。現在41歳の西尾さんが最年少という時期も長かったそうです。そのような環境と、伝統を次代につなぐという強い意識から、「10年先を見つめる」習慣がついたという西尾さん。20代の頃にはイギリスの茅葺き職人のもとへ住み込み、また日本全国修業の旅へ。日本の茅葺きは地域によって使う草や屋根の形などが変わりますが、「あの時、みっちり教えていただいたお陰で、恥をかかず、日本中どここの屋根でも葺くことができます」。

そんな10年先を見据える西尾さんが、今、力を入れていることのひとつが、「南国風茅葺き東屋」の販路開拓です。それはどのような商品なのか。まずは南国風茅葺きとの出会いからお聞きしてみました。



伝統工法の施工例「和歌山城紅葉深庭園門」

茅葺きをもっと大衆的なものに

今から5年ほど前、西尾さんは視察に訪れたフィリピンのリゾート地で、コゴンという草を用いて、葉を下に向けて重ねるといった原始的な茅葺きの家屋に出会います。「これに日本の伝統を取り入れたら面白いものができるのではないか」と思い、帰国後、「アジアンかやぶき」という名で商品展開。2年ほど経った頃、沖縄のレストランから依頼がありました。「フィリピンで見たような屋根は雨風に決して強いとはいえません。5年ほどで葺き替えになってはレストランとしてはマイナス要因ですから、この時は、屋根の下部は現地の葺き方、上部は伝統的な日本の茅葺きの二重構造にしました。あれから2度台風が直撃しましたが、何の問題もなく、まだまだ長持ちしそうです」。

アジアン茅葺きの可能性に確信を持った西尾さん。実は偶然にも、レストランの親会社が、フィリピンから椰子の実

農林水産物の活用 伝統製品の活用

を輸入する企業で、日本でのシェアNo1でした。このルートを使ってコゴンを直輸入することが可能になり、次なる展開として考えたのが東屋でした。

「茅葺き屋根は防災上、建築基準法の適用区域内では新築を建てることができませんが、東屋は除外されているので、大抵の場所に建てるができます。また職人にとって、伝統の茅葺きは葺き替え需要を待つばかり。でもこれなら自ら売り込んでいきます。業界初の“攻め”の商品なんです」。

現状では日本の茅葺きは重要文化財など特殊な建物のみに使われるものとなり、また大変高価です。さらに、職人数が圧倒的に少なく受注は集中しますが、1人で抱えられるキャパシティに限られているので、なかなか売り上げに結びつかないという問題があります。「茅葺きにも大衆的なものがあっていい。それが茅葺きの魅力を知ってもらい機会となります。そう考えたからこそ、東屋というカジュアルなものを作ろうと思いました」。



沖縄那覇に展示されている南国風茅葺き東屋

純京都産でリゾートの風景を変えたい

こうして、ファンドを使って開発した「南国風茅葺き東屋」は、北山杉の丸太を使い、西尾さんが屋根を葺き、美山の木工の技術で組み立てられる、まさしく純京都産。

「京都の職人が作っているというサプライズもアピールポイントです」。職人仕事の受注が増えること、さらに、ほんの少しの傷でも廃棄されてしまう北山杉を有効利用できるのでは、と関係者は期待を寄せています。

この東屋は、コストと施工時間を削減するために、あらかじめ下地を作りコゴンで屋根を葺いて二分割。これをトラックで現地に運んで組み立てます。これなら1日でセット完了。今は、沖縄那覇と美山にサンプルが置かれています。

「販売だけでなく、ご希望に応じてリースも考え、屋根は定期的にメンテナンスをし、丸ごと交換。自然のもので作られていることのリスクをお客様に負わせず、こちらで負う姿勢を徹底します。東南アジアから輸入すると安価かもしれませんが、私達は、京都の伝統産業である茅葺きの職人

の手がける商品ということと、アフターケアでも差違化を図りたいと考えています」。



茅葺き民家1棟買しの宿も運営(国有形登録文化財)

茅葺き用の「防火ネット」も試作中

並行して、西尾さんは茅葺き屋根用の「防火ネット」を試作、特許申請中です。「建築基準法が2000年に緩和され、実験等で不燃材同等の性質が認められたものを使えば、新築も建てられるようになりました。防火ネットは茅葺きの上に金網のネットをかぶせ発泡塗料を塗り、飛び火が来ると、その発泡塗料が膨張して種火を包み込んで、茅葺きを守ります。試作第一号は成功していますが、網目が細かくてかぶせると茅葺きの風合が損なわれ、発泡塗料の耐候上の課題がありますから、まだまだ試作を重ねます。完成したら、まずは、常に火災の危険にさらされている重文の建物などに使っていただけたら」。

伝統も守りつつ、新しいことにチャレンジし続ける西尾さん。「竪穴式住居の時代から続く人類最古の技術を受け継ぐ者として、誇りを持っていますし、それで生きていくことに幸せを感じています。けれど、それは私の技術ではなく、先人からお預かりした技術。ちゃんと次につないでいかなくてはなりません。茅葺きと茅葺きの技術が後世まで残るように、今、出来ることを悔いなくやっていきたいですね」。

事業概要

ニシオサプライズ 株式会社

<http://www.yaneharu.com/>

代表：西尾晴夫

業種：茅葺き屋根工事業

創業：平成16(2004)年 設立：平成19(2007)年

住所：〒601-0751

南丹市美山町島英サ29

TEL：0771-75-5088 FAX：0771-75-5087